

(J) 肘関節脱臼 ※柔整テキスト P271~275

重要度: ★★★
★★★
★

[特徴] ★★

- ・ 肩関節脱臼の次に多い
- ・ 前腕両骨後方脱臼が最も多い
- ・ 青壮年に好発する
- ・ 外観は上腕骨顆上骨折伸展型と類似

[分類] ★

(1) 前腕両骨脱臼

- ① 後方脱臼 → 最多
- ② 前方脱臼 → 極稀
- ③ 側方脱臼 → 外側脱臼 > 内側脱臼
- ④ 分散（開排）脱臼 → 前後型と側方型

(2) 単独脱臼（稀）

- ① 尺骨脱臼 → 後方へ脱臼するが稀
 - ② 橈骨脱臼 → 前方・後方・側方脱臼
- ※ 尺骨近位の骨折を伴って起こることがある
(モンテギア骨折など)

(1) 前腕両骨脱臼

① 前腕両骨後方脱臼

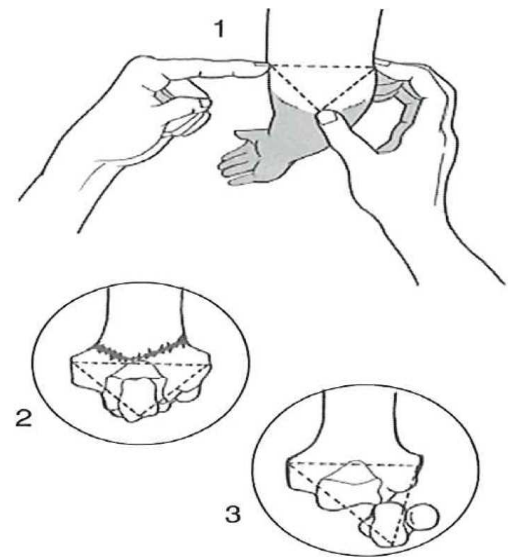
[原因（発生機序）] ★★

肘関節が過伸展を強制され、尺骨肘頭部が上腕骨肘頭窩に衝突、
上腕骨遠位端部が前方へ押し出される
関節包前面が断裂する



[症状] ★★★★★

- ・ 上腕三頭筋腱を索状に触れ、肘関節軽度屈曲位（30~40°）に弾発性固定される
- ・ ヒューター三角の乱れがある
肘関節伸展位における評価では肘頭高位になるが、受傷時伸展位をとることは不可能である
- ・ 肘関節軽度屈曲位に弾発性固定され、前腕は短縮して見える
- ・ 外観が類似している上腕骨顆上伸展型骨折との鑑別が必要



[治療（整復法）]

デパルマ法

- ・ 上腕を固定し、肘関節部を回外位の手関節部を把持し、脱臼肢位の角度・肘関節軽度屈曲位のまま → 前腕長軸の末梢方向へ牽引を加えつつ肘関節を屈曲し整復する。
- ・ 整復後、肘関節の屈曲伸展運動と前腕の回旋運動にて整復状態を確認する

ローゼル法

- ・ 患者背臥位とし、上腕骨遠位端部後面に枕等で支点を作り、肘関節に過伸展を強制しながら末梢方向へ牽引し、肘頭部を前下方へ圧迫しながら肘関節を屈曲して整復する

[治療（固定法）] ★★

- ・ 肘関節90° 屈曲位、前腕中間位にて3週間の固定+三角巾で提肘する

[治療（後療法）]

- ・受傷後1週間、患部は**冷却**し安静にする
- ・肩・手指の関節運動 → 腫脹疼痛減退後、自動運動を中心に関節可動域訓練を行う

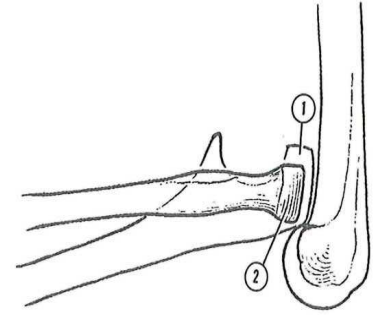
[合併症] ☆☆☆

- ・骨折 : 上腕骨の内側上顆・外顆骨折、**尺骨鉤状突起骨折**・橈骨頭骨折 など
- ・神経損傷 : **橈骨**・**尺骨**・**正中神経**
- ・**外傷性骨化性筋炎** : 強制的他動運動により発生することがある
- ・側副靭帯損傷 : 内側側副靭帯が頻発する

②前腕両骨前方脱臼

[原因（発生機序）]

- ・肘関節屈曲位で肘頭前腕部に対する後方からの直達外力により発生する
- ・多くは**肘頭骨折**を伴う



②前方脱臼

[症状]

- ・肘関節90° 屈曲位近くで弾発性固定される
- ・肘関節部の前後径増大し、肘頭骨折を伴う

③前腕両骨側方脱臼（稀である。）

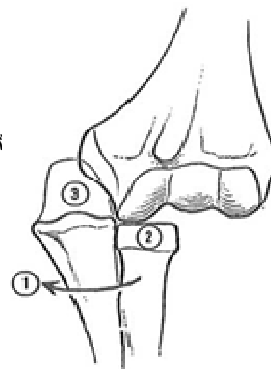
☆前腕両骨外側脱臼

[原因（発生機序）]

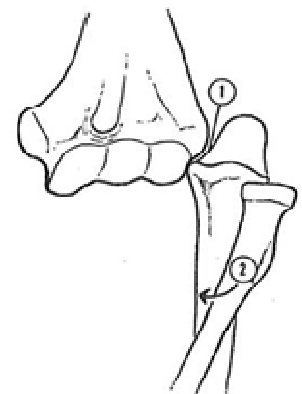
- ・前腕部に対する内側からの強力な外力により、肘関節が外転強制され発生する。

[症状]

- ・肘関節部の横径増大
- ・上腕骨内顆・橈骨頭の突出



③側方脱臼(内側脱臼)



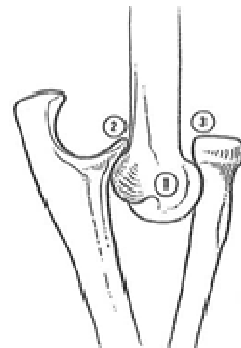
③側方脱臼(外側脱臼)

☆前腕両骨内側脱臼

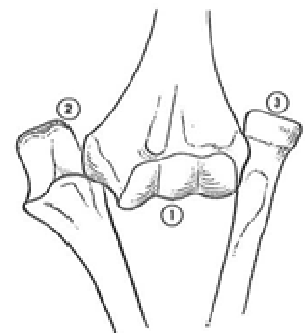
- ・発生機序・変形のどちらも前腕両骨外側脱臼の反対（上腕骨外顆・尺骨頭の突出）となる。

④前腕両骨分散(開排)脱臼（極めて稀である。）

- ・前後型：尺骨は後方、橈骨は前方へ転位する
- ・側方型：尺骨は内方・橈骨は外方へ転位する



④分散脱臼(前後型)



④分散脱臼(側方型)

(2) 橈骨頭単独脱臼

- ・単独脱臼としての発生は極めて稀である
- ・尺骨近位の骨折を伴うことがほとんどである（**モンテギア脱臼骨折**）
- ・**前方脱臼**が多い
- ・**後骨間神経損傷**を合併することが多い